



8月号 (No. 5)

2026年7月17日

帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

帝京大学のプールを使つての水泳指導

帝京大学小学校 校長 石井卓之



昨年度まで多摩市内にある温水プール、アクアブルー多摩で行っていた水泳指導を、今年度から帝京大学構内にある大学の温水プールで行うこととしました。

バスでの移動に時間がかかる、ロッカーと子どもの人数の関係で着替えに時間がかかるなど、水泳指導ができる時間が少ないという課題を解決するための変更です。

指導は、帝京大学スポーツ医療学科健康スポーツコースの蛭間栄介教授と水泳部の5人の大学生、本校体育科の教員と学年団の教員が行いました。

今回の指導に向けて、本校の体育科と蛭間先生は昨年度から何回も話し合いをもち、実態に合う指導を行う準備を進めてきました。小学生の指導が行いやすいようにプールフロア（水深を調節するための踏み台）を、当日授業前に蛭間先生の指導のもと、水泳部の学生さんが準備をしてくれました。また、等々力教頭は現在も大学水泳の運営に関わっており、今回も毎回、児童の指導を行いました。

私も公立小学校時代に水泳指導は毎年行っていましたが、一斉指導がほとんどなく、10人程度の児童で班を構成して2から3名の指導者が丁寧に教える水泳指導は初めてです。今回、安全管理の教員も2名以上プールサイドに配置できました。見学児童は、探検ボードをもって学習の様子を観察し、気付いたことを記入するなど、単なる見学ではなく、学びを進めることができていました。また、緊急時の対応のために同行している松田養護教諭も見学児童の役割として、水質管理のための塩素濃度測定を依頼していました。

どの学年もルールを守り、安全に行動できていたので、予定していた点呼、シャワー、準備運動、水慣れが短時間で終わり、班での水泳時間を長く取ることができていました。初めての会場でこれができる帝小っ子、手前味噌ですが、素晴らしい子どもたちです。今回、移動時間がほとんどなく、着替えも学校で行っていくことで指導時間が十分に確保できることも分かりました。低学年は、台風による休校で振替の時間が取れなかったために、今回は1回少なくなったことはとても残念でした。

実施後の反省を大学と一緒に言い、よりよい水泳指導を次年度も行っていきます。